

秋田県で働く保健師を対象とした看護協会に関するアンケート調査結果

秋田県看護協会保健師職能委員会

1 調査目的

保健師においては全国的にも看護協会への入会率が低く、とりわけ新規加入者の減少が喫緊の課題となっている。このことから、看護協会への認識や要望等を把握するとともに、今後の会員の確保や活動の取組を検討するためアンケート調査を実施した。

2 調査対象と調査期間

- ・秋田県内の保健師にメールによる調査
- ・当看護協会において保健師の在籍を把握している施設及び個人へのメール配信による回答依頼
- ・調査期間：令和5年9月1日～9月29日

3 調査結果

- ・回収数145件 回収率23.2%（参考値）
（令和4年度秋田県保健師数625人を用い、参考値として回収率を算定）

(1) 回答者の特性（無回答除く）

【属性】

性別 女性93.8% 男性5.5%

年齢層 20代 : 17.9%
30代 : 29.0%
40代 : 22.8%
50代 : 20.0%
60代以上 : 10.3%
20代・30代で46.9%を占める

【所属先】

市町村 : 51.0%
県 : 17.2%
医療機関 : 9.0%
教育・研究機関 : 5.5%
地域包括支援センター : 4.8%
介護施設・健診機関等 : 9.1%

【保健師数】

1人のみ : 13.8%
2人以上5人未満 : 29.7%
5人以上10人未満 : 23.4%
10人以上 : 29.7%

【経験年数】

5年未満 : 26.2%
5～15年未満 : 27.6%
15～20年未満 : 10.4%
20～30年未満 : 17.9%
30年以上 : 17.9%
15年未満が53.8%と半数以上を占める

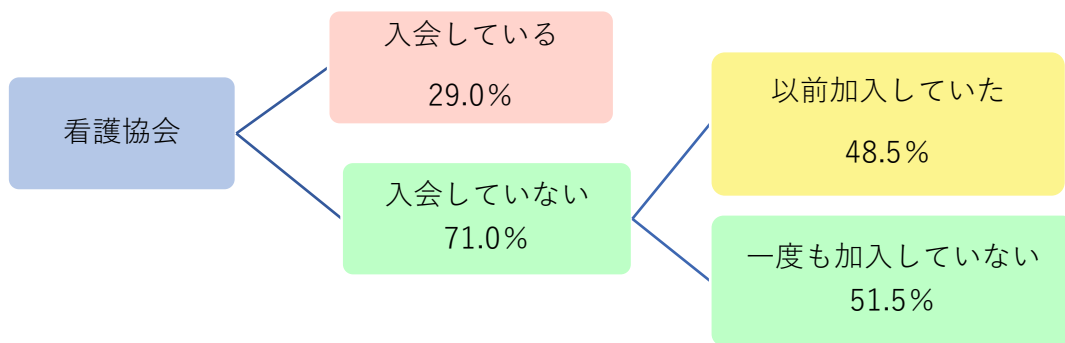
【職位】

係員 : 54.5%、係長級 : 14.5%、
補佐級 : 10.3%、課長級 : 3.4%、
医療機関師長・副師長等 : 11.8%

【雇用形態】

正職員 : 84.8%、再雇用 : 4.1%、
会計年度職員 : 2.8%、非常勤等 : 5.5%

(2) 看護協会への入会状況



(3) 入会へのきっかけや加入しない理由等

入会のきっかけ (複数回答)	辞めた理由 (複数回答)	加入しない理由 (複数回答)
<ul style="list-style-type: none"> • 継続加入 45.2% • 職場で勧められた 40.5% • 専門職の職能団体を形成すべきである 31.0% • 他組織の保健師との交流 16.7% • 協会研修会に参加できる 14.3% • 看護職賠償責任保険に加入できる 2.4% 等 	<ul style="list-style-type: none"> • 会費が高い 60.0% • メリットが少ない 44.0% • 転職 42.0% • 余裕がない 38.0% • 産休育休 2.0% 等 	<ul style="list-style-type: none"> • 会費が高い 52.8% • 会員メリットが少ない 52.8% • 身近に加入者が少ない 34.0% • 役割への負担 26.4% • 保健師研修会が少ない 24.5% 等

(3) 看護協会に関する事項

【複数回答】

看護協会事業の認識度	教育等看護職の質の向上事業	85.5%
	看護業務・制度の開発、改善等事業	73.8%
	看護職員の労働環境改善・就業促進事業	62.8%
	県民への健康維持・増進に係る指導及び事業啓発	62.1%
	訪問看護、居宅介護支援、介護予防等事業	42.1%
	関係機関・関係団体との連絡調整事業	26.3%
	その他（組織強化、地区支部活動等）	37.2%

看護協会主催の研修への参加有り82人（56.6%）



【自由記載】

参加した事業名	保健師職能集会	20人
	事例検討会	12人
	一般教育研修	8人
	新任期保健師の集い・研修会	7人
	中堅期・階層別研修	4人
	業務に関する研修	4人
	地区別研修・活動	4人
	その他（学会・看護の日事業・委員活動等）	6人

【複数回答】

入会のために必要なことは何か	保健師に関する研修会・事業の充実	64.8%
	会費を安くする	58.6%
	他に所属する保健師との交流、情報交換	38.6%
	職能団体として保健師の仕事・立場を守る	35.2%
	会員特典がある	29.0%
	保健師に関する協会認定資格制度の導入	27.6%
	職場の課題や制度改正の要望を県や国に提言する	25.5%
	復職に役立つ研修や求人等	24.1%
	看護師・助産師との連携	11.7%
	保健師団体との交流	9.0%
その他（広報活動、受講履歴の閲覧等）	4.1%	

【自由記載】

どのような研修会があれば参加するか	保健師のスキルアップ研修	23人
	困難事例の検討会	6人
	産業保健・包括支援等	6人
	保健師等との情報交換及び交流	5人
	最新医療・看護技術の習得	5人
	保健師自身・ケースへのメンタルヘルス	4人
	新任期研修	3人
	特定保健指導	2人
	地域と医療の連携	2人
	その他（統括保健師の情報交換、労働環境等）	8人

【自由記載】

保健師活動で困っていること	相談先・情報交換の場がない	9人
	マンパワー不足	7人
	人材育成（新任期・能力向上・新任期の指導者等）	6人
	困難事例などのケースワーク	5人
	災害や感染拡大時の保健活動の体制	3人
	保健師として専門技術への不安	3人
	地域包括支援センターでの保健師の役割	3人
	行政内での横の連携、産業保健師の処遇	2人
	住民との関係、保健師活動の魅力発信の不足	2人
	その他（県の市町村指導を要望、医療現場における保健師の役割等）	2人

【自由記載】

看護協会への意見 ・要望	職能団体としての活動の意義や役割の周知が必要 （看護協会の活動や情報が入らない、職場で入会の意識がない、 看護師のみが入会するイメージ等）	8人
	会員のメリットの充実	6人
	研修会の充実（産業保健、福祉部門：児童虐待、地域包括、 リモート研修等）	4人
	情報発信（情報提供や研修会のインスタ、ラインの活用）	3人
	その他（保健師活動の発展等）	2人

4 今後の方針

(1) 看護協会の職能団体としての活動や役割の周知

- ・新任研修、各事業を通じて情報発信をする。
- ・メーリングリストでの発信の継続実施をする。（厚労省保健指導室だより、日看協の情報、研修会案内、法改正等）
- ・保健師団体連絡会(*)などの機会を通じて保健師間のネットワーク化を進め、広く周知する。
*保健師団体連絡会：秋田県・秋田県看護協会・秋田県保健師会・秋田県在宅保健師等ゆずり葉の会・秋田県産業保健総合支援センターの5団体による連絡会

(2) 保健師の研修の充実

- ・最も要望の多いスキルアップ研修について、さらなる研修内容の充実を図る。
（保健師間及び多職種との連携や情報交換、人材育成、政策立案等）
- ・継続研修として、困難事例の検討会、メンタルヘルス研修の実施をする。
- ・新たに産業保健、地域包括支援センター研修等の企画を検討する。

(3) ネットワーク強化

- ・保健師団体連絡会及び研修会等を通じて他分野の保健師間の連携強化を図る。
- ・SNSなどを活用した相談体については日看協の動向など注視する。